

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 29日は、高気圧が日本の東へ移動する。低気圧が日本海北部へ進み、前線が西日本の日本海沿岸にのびる。
- 30日は、低気圧がサハリン付近へ進み、前線が北日本付近を通過する。
- 31日から1月1日にかけては、低気圧が千島近海を北東に進み、大陸の高気圧が日本付近に張り出して冬型の気圧配置となる。
- 2日は、日本付近は気圧の谷となり、日本海に低気圧が進む。

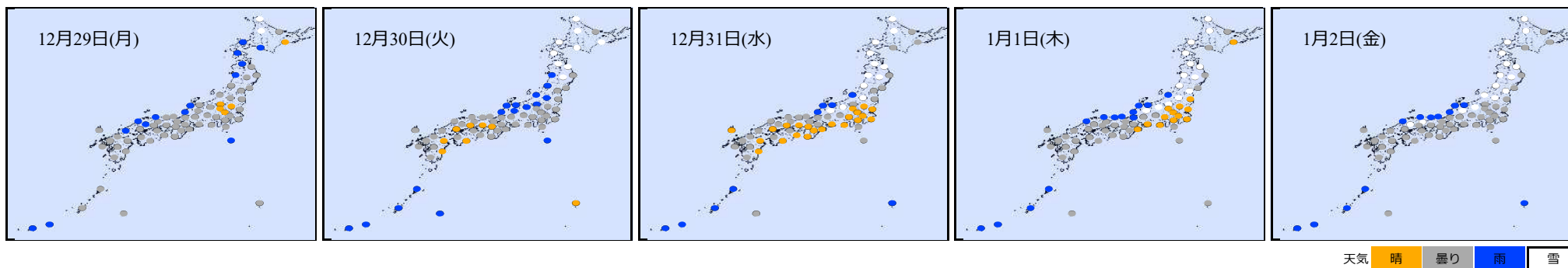
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

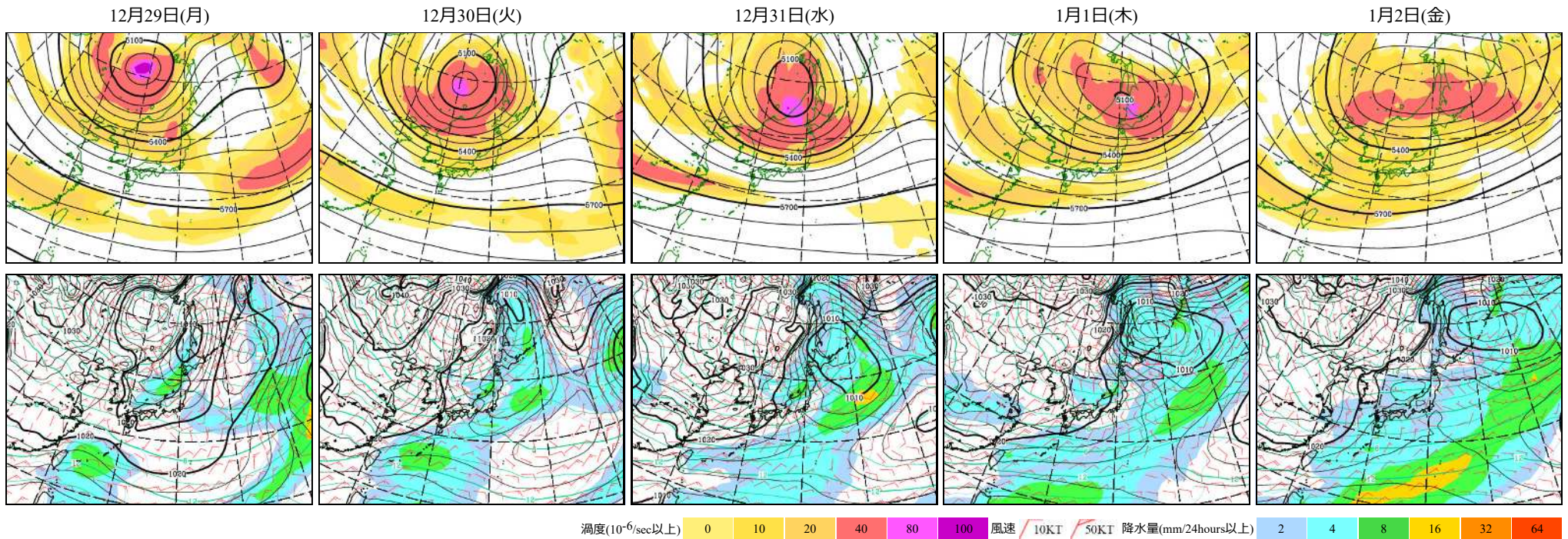
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

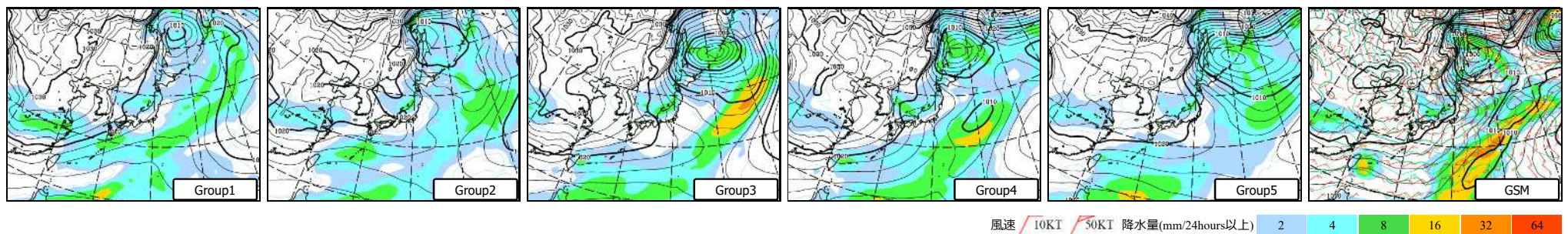


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れる日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、31日から1月1日にかけて日本の東の気圧の谷が深まり、大陸の高気圧が強まったため日本付近の冬型の気圧配置が強まった。
- 沿海州付近に進む寒冷渦の動きは、31日まではモデル間の差は小さいが、1月1日以降はモデル間の差が大きくなる。
- スプレッドは期間の後半は大きく、5400mの特定高度線のバラつきも大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。